

ノ袋ヲ吊リ下ゲテ之ヲ曳キテ之ヲ水ト混和スルニ槳ヲ用ヒル。水面ニ硫酸銅溶液ヲ一様ニ配布スルモ亦他ノ一法デアル。

水中ノ多量ノ藻類ガ枯死シ又ハ腐敗スルコトハ、其水ノ品質ヲ大イニ損害スルコトトナル。

第 53 表

臭ヲ發生スル種々ノ有機體ヲ死滅セシメルニ必要ナル硫酸銅ノ量、要セラレル硫酸銅ハ水ノ 100 萬部分ニツイテノ部分即チ p. p. m. デ示サレテ居ル。

Anabaena	0.09	Kirchneriella	5.0~10
Asterionella	0.10	Leptomitus	0.4
Beggiatoa	5.0	Microspora	0.4
Chara	0.2~5.0	Navicula	0.07
Cladophora	1.0	Oscillatoria	0.1~0.4
Cladotrix	0.2	Peridinium	2.0
Clathrocystis	0.1	Scenesdesmus	5.0~10.0
Coelosphaerium	0.3	Spirogyra	0.05~0.3
Conferva	0.4~2.0	Ulothrix	0.2
Euglena	1.0	Uroglena	0.05
Fragilaria	0.25	Volvox	0.25
Hydrodictyon	0.1	Zygnema	0.7

けら-まん氏ノ經驗ニ依レバ貯水池、沼等ニ於テ面倒ヲ生ズル藻類ノ種類ハ次ノ如クデアルト稱セラレル。

第 54 表 認メラレタル場合ノ數

Anabaena	27	Conferva	56
Asterionella	9	Crenothrix	13
Beggiatoa	20	Fragilaria	19
Chara	26	Navicula	21
Cladophora	17	Oscillatoria	49
Clathrocystis	23	Spirogyra	43

即チ其水ノ濁度、色度、有機物質含有量ハ著シク増加シ不快ノ臭ヲ發スルコトガアル。此臭ハ數日ニシテ消失スルコトモアリ、又甚ダ頑固ニ存續スルコトガアルカラ、若干日數ノ間ハ其水ヲ使用セナイカ又ハ全然此水ヲ棄テネバナラヌ事ガアル。

非常ナル安全率ヲ採リテ水中ノ硫酸銅ノ限界量ハ 0.8 p. p. m. 即チ銅ノ .02/100,000 デアルト云ハレテ居ル。硫酸銅處理ヲ行ヒタル場合ニ於テ、最終ノ淨水中ニ銅ガ溶有セラレテ居ルコトハ無イ筈デアルガ、用ヒラレタル銅ガ貯水池又ハ沈澱池中ニ於テ鹽基性炭酸銅又ハ水酸化銅トシテ沈積シテ除去セラレタカ又ハ是等ガ濾過床ニ於テ除去セラレテ淨水中ニ存在セナイコトヲ確カメルタメニ處理後、水中ノ銅ニ對スル試験ヲ行ヒテ、淨水中ノ銅ノ存否ヲ確知スルヲ宜シトスル。魚類ニ有害デアル硫酸銅ノ量ハ第55表ノ通り。

第 55 表

魚類ヲ死滅セシメル硫酸銅ノ濃度(ほいつぶる氏)

魚 類	p. p. m.	1,000 立方メートルニツキテ
鱒	0.14	0.12
鯉	0.30	0.25
吸盤ヲ有スル魚類	0.30	0.25
鯰	0.40	0.35
小梭魚(こかます)	0.40	0.35
金 魚	0.50	0.40
鱸(すゞき)類ノ魚	0.75	0.60
鰻車魚(まんぼう)	1.25	1.0
鱸ノ一 種	2.10	1.7

硫酸銅處理ニ亞イデ池中ニ死魚ガ現ハレル時ハ、之ハ枯死藻類ノタメニ鰓ノ窒息スルニ因ルカ又ハ枯死藻類ノ分解ノタメニ水ノ脱酸素作用ニ因ルカデアアル。勿論或藻類ヲ死滅セシメルニ要スル硫酸銅用量ガ第55表ノ數值ヲ超過シタル場合、水中ノ此高濃度ノ面積中ニテ魚類ガ過然死滅スルコトハ有り得ルコトデアアル。

本邦ニ於テハ澁谷町水道ガ濾過池内ノ藻類發生ヲ阻止スルタメニ、夏季臨時的ニ 0.05~0.10 p.p.m. ノ硫酸銅ヲ使用シタ。又東京市水道ノ村山貯水池及ビ江戸川水道ノ沈澱池ニ硅藻類ノ發生シタル時ニ、漂白粉ト共ニ硫酸銅ノ 50,000,000 分之1、即チ 0.02 p.p.m. ノ割合ヲ使用シタコトガアル。